

手外科シリーズ

26. 母指多指症



監修
一般社団法人
日本手外科学会広報委員会



制作
エーザイ株式会社

26

ほ し た し しょう

母指多指症

● 症状 ●

生まれつき母指がふたつあります。通常は、外側の母指が小さくなります。指の動きも、大きく発達している方が、よく動きます。



● 原因・病態 ●

手の先天異常の中でもっとも多く発生します。原因は明らかではありませんが、胎生期に手の部分的な障害によって母指の重複が起こるとされています。時に他の先天異常との合併もみられます。

● 診断 ●

指が完全に分かれたもの(中手骨型)や、部分的にわかれたもの(末節骨型)、親指の外側に袋状についているもの(浮遊母指)など、いろいろな形態があります。



中手骨型



末節骨型

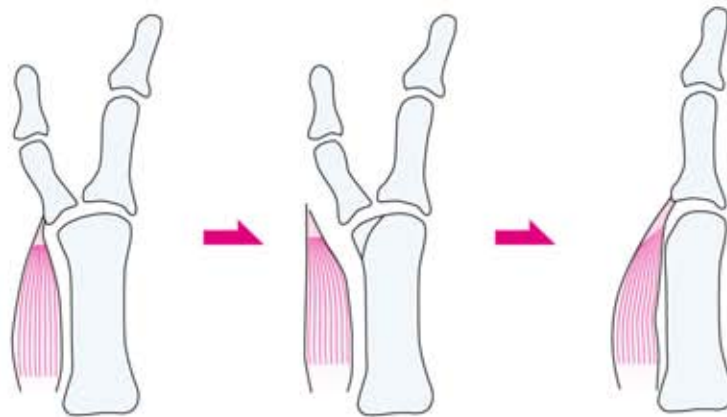


浮遊母指

● 治療 ●

できるだけ、正常に近い母指を作る手術療法を行います。単純に余っている母指を取り除くだけではなく、切除する側の筋肉や腱を残す側の適切な場所に移動させる手術が行われます。手術の時期は個人差もありますが、大体1歳くらいで行います。

多指症の形によっては、特別な手術が必要な場合もあります。主治医とご相談下さい。また、お子さんの成長に伴って追加手術が必要となる場合があります。



手術の一例